

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月6日現在

機関番号：32407

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21560671

研究課題名（和文）近世町家の形成と多様な形式の発生要因
—オランダ商館長などの記録を基礎史料に—

研究課題名（英文）A study on the formation process and various forms of townhouse of early modern

—A study of the documents such as the Mayor of Dutch VOC trading factory at Dejima in Nagasaki—

研究代表者

波多野 純 (HATANO JUN)

日本工業大学・工学部・教授

研究者番号：40049721

研究成果の概要（和文）：本研究は、長崎出島のオランダ商館長などが遺した記録（模型、日誌など）を基に、日本の町家の地域的特質を、従来とは異なる目で分析する。オランダ商館長らが製作させた模型は、長崎の町家等をモデルとした。それらは、外観の特徴ばかりではなく、部屋の格式や用途によって室内意匠が異なることを正確に伝えている。また、その様相は、1822年～1828年代の状況を示している。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes documents (models, diaries) such as the Mayor of Dutch VOC trading factory of Dejima, Nagasaki. We analyze regionalism of the Japanese town house by eyes different conventionally. The model assumed town house of Nagasaki a model. The model expresses a characteristic of the appearance and indoor design precisely. In addition, the aspect shows the situation of from 1822 to 1828.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：町家 町家模型 オランダ商館 近世 絵画史料 長崎 ブロムホフ シーボルト

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の出発点

本研究の出発点のひとつに、風土決定論への根本的疑問がある。「民家の形式は風土によって決まる」との考え方は教科書的に広く認められている。しかし、風土はひとつの要因であっても、唯一の決定要因ではない。「雁木は積雪時の通路確保を目的に建設された」は認められても、「積雪地域には必ず雁木が

造られる」は、金沢の事例をあげるまでもなく認められない¹⁾。これまで筆者は、町家形式の形成要因について、気候風土・都市規模などが近い金沢と仙台の町家形式を比較し、屋根葺材や底下通路の有無などの違いは、気候風土ではなく、金沢は京都、仙台は江戸からの文化的影響であることを指摘した。つまり、町家形式は気候風土によって決定されるのではなく、文化的な伝搬経路や藩の都市政

策に基づくとの視点から研究を進めてきた²⁾。

(2) これまでの成果

次の展開として、19世紀初め、長崎出島のオランダ商館に勤務したシーボルトらが日本人に製作させた町家模型を調査した(平成18/19/20年度科学研究費補助金基盤研究(C))。ライデン国立民族学博物館(以下、ライデン博)所蔵の町家模型6棟(表1 模型①~④・⑧・⑨)には、長崎の町家にみられる細部の特徴がある。シーボルトらは、日本人の大工に模型を注文するにあたり、単純に町並みの一部を切り取ったのではなく、いくつかの特徴的なタイプの町家を組み合わせ、町並みの特性と景観を重点的に伝えようとした。また、呉服屋・醬油屋・魚屋などの業種にあわせた小物や、襖の絵柄にまで気を配っている。つまり、それぞれの町家で営まれた商売が、町家の平面や意匠を決定する重要な要素であることを、シーボルトらは理解していた³⁾。

本研究は、この成果を発展させ、西欧人の、日本の町家に関する正確な理解に着目することで、近世町家の形成要因について新たな視点を獲得することを目指している。

注

- 1) 菅原邦夫・波多野純「近世における雁木通りの建設整過程」日本建築学会計画系論文集494号 1997年
- 2) 野口憲治・波多野純「『東海道分間延絵図』からみた町家の屋根葺材について -町家形式の風土決定論に対する再検討(3)」日本建築学会大会学術講演梗概集(F2)2005年、平成15/16/17年度科学研究費補助金基盤研究(C)
- 3) 波多野純・野口憲治「西欧人の見た近世町家の特質と地方性-ライデン博物館所蔵模型の検討を中心に-」平成18~20年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書

(3) ライデン博所蔵の模型のコレクションと検討対象模型

ライデン博には、長崎出島のオランダ商館の建物の模型や社寺、橋梁、農具、大名行列、職人、など多種多様な模型が収蔵されている。これらの模型は、19世紀初め、長崎出島のオランダ商館に勤務したブロムホフやフィッセル、シーボルトらが日本で収集しオランダへ送ったもので、収集者別に分類されている。また、模型は、彼らの日本での活動時期から、1809年から1830年の間に収集されたことになる¹⁾。

本研究では、これらのコレクションの中から町家等の建物の模型を検討対象とする。中でもシーボルトコレクションの模型は、シーボルトが民俗学的なコレクションを収集し

始めた1826年からシーボルト事件(1828年)が起こるまでの短い期間に収集された²⁾。つまり、模型は特定の年代の様相を示しており、現存する町家などの遺構では明らかにすることができない当時の建築的特徴を知ることができる。

これまで、シーボルトコレクション8棟、ブロムホフコレクション7棟、フィッセルコレクション2棟、不明5棟、計22棟の模型を調査した³⁾。模型は、町家12棟、農家2棟、土蔵5棟、便所などその他3棟に分類できる(表1)。

本研究では、22棟の模型の中から、町家、農家、遊興施設などを示す模型①~⑩の10棟(シーボルトコレクション7棟、ブロムホフコレクション1棟、フィッセルコレクション1棟、不明1棟)を検討対象とする⁴⁾。

これらの模型には、年代を直接示す墨書などはない。しかし、シーボルト『日本』⁵⁾の挿図やシーボルトが遺した調査日記⁶⁾、ライデン博のコレクション台帳⁷⁾と照合することにより、模型の製作年代を特定することができる。

注

- 1) ブロムホフ(滞在期間:1809~1813、1817~1823)。フィッセル(滞在期間:1820~1829)。シーボルト(滞在期間:1823~1830、1859~1862)
- 2) 近藤雅樹「幻の博物学標本作者たち」(ヨーゼフ・クライナー編著『黄昏のトクガワ・ジャパン シーボルト父子が見た日本』1998年 日本放送出版協会 所収)
- 3) 出島模型を除く。また、平成18/19/20年度科学研究費補助金基盤研究(C)において模型①~④・⑧・⑨・⑩、平成21/22/23年度科学研究費補助金基盤研究(C)において模型⑤・⑥・⑦・⑪・⑫~⑮を調査した。ライデン博の所蔵番号からみると、「360-XXXX」はブロムホフのコレクション、「1-36XX」はシーボルトのコレクションに分類される。例外的に、360-3977、360-3978は調査によりフィッセルのコレクションと判明した。
- 4) 本研究においては、土蔵模型は検討対象から除外した。シーボルトらは、住まい方や職業によって室内外の意匠が異なることを理解していた。土蔵模型は、外観のみの模型で、室内の使い方や意匠は読み取れない。
- 5) ライデン国立民族学博物館蔵
- 6) ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関係文書「1826年9月15日漁村小瀬戸への調査旅行」
- 7) ライデン国立民族学博物館蔵。1837年から1869年にかけてのコレクションをまとめた台帳である。

2. 研究の目的

本研究は、シーボルトらが見た日本の近世町家の特質を同時代の町家と比較し、町家形式の地域的特質を明らかにすることを目的とする。

現存町家遺構が歴史的な増改築の結果であるのに対して、模型は19世紀初頭の様相を伝えている。本研究では、模型と遺構さらに文献史料を比較し、近世町家の地域的

表1 模型の名称と分類

製作年代	模型の状態	建物種類	町並か単体	タイプ	商売の営み	所蔵番号【コレクション】	ラゲン博の名称【所蔵年代】	模型の名称				
年代を特定できる	欠落が少ない	町家・農家・遊興施設	町並	Aタイプ	職業を示す	①	1-3679a [S]	woonhuis 【1820-1829】	名主の住まい			
												醤油屋
						②	1-3679-c [S]	wachthuis met voorhang 【不明】	番人小屋			
						③	1-3680c [S]	katoenwinkel 【不明】	酒屋			
									綿織物の商店			
									日雇い労働者の家			
						④	1-3680d [S]	rijstwinkel en sakebrouwerij 【不明】	布製品・衣類の商店			
									魚屋 菓子屋			
									湯屋			
						単独	職業が不明	Cタイプ	⑤	1-3680b [S]	woning, boerenwoning 【不明】	農家
									⑥	1-3679g [S]	badhuis 【不明】	フロヤ
									⑦	1-3681 [S]	woonhuis 【1820-1829】	屋敷
⑧	360-3283 [B]	huis 【1822-1823】	家									
⑨	00-524 【不明】	huis 【不明】	遊びのための家									
⑩	360-3977 [F]	speelhuis theehuis 【1800-1829】	賭博場 喫茶店									
土蔵						⑪	1-3679d2 [S]	pakhuis 【不明】	土蔵			
						⑫	360-3981 [B]	pakhuis 【1800-1829】	蔵			
						⑬	360-3983 [B]	pakhuis 【1800-1829】	蔵			
						⑭	360-3937 [B]	不明 【1817-1818】	外観から判断すると土蔵			
						⑮	360-3980 [B]	不明 【1800-1829】	外観から判断すると土蔵			
						⑯	360-3978 [F]	woning 【1800-1829】	住居			
年代が特定できない						⑰	360-0-20 [B]	huis 【不明】	便所			
						⑱	360-0-21 [B]	huis 【不明】	「No7Bセツイン」の礼がある			
						⑲	00-416 【不明】	huis 【不明】	家			
						⑳	00-405 【不明】	huis 【不明】	家（農家風）			
						㉑	00-460 【不明】	huis 【不明】	「No5カミユイトコロ」の礼がある			
						㉒	00-467 【不明】	huis wijnhuis 【不明】	家 ワインの家			

※コレクション：[B] プロムホフ [F] フィッセル [S] シーボルト
※本研究では、屋根や壁、建具などが大半に欠落している模型⑰および年代が特定できない模型⑱～㉒は、検討対象外とした。

検討対象とする模型

表2 模型と対応する史料と主な特徴

町家模型	景観	挿図の種類	日誌の記述	台帳の番号	長崎の町家の特徴	棟	天井（見世、座敷）	天井（床の間の間がある部屋）	床の間	人形
①	町並	外観	-	No3	有	唐紙	省略	竿縁	有	-
	町並	外観	-	No12	有	唐紙	省略	竿縁	有	-
②	町並	外観	-	No5	有	無	省略	-	無	-
	町並	外観	-	No4	有	唐紙	省略	竿縁	有	-
③	町並	外観	-	No11	有	唐紙	小屋を表す	-	無	-
	町並	外観	-	No9	有	無	省略	-	無	-
	町並	外観	-	No6	有	唐紙	省略	唐紙	有	-
④	町並	外観 平面図	-	No7	-	唐紙	無	-	無	-
	町並	外観	-	No8	未調査					
	単独	外観 平面図 断面図	記述有	No10	日誌に長崎	無	小屋を表す	-	無	-
⑤	単独	外観	記述有	-	日誌に長崎	無	小屋を表す	-	無	-
⑥	単独	外観 平面図 断面図	-	-	有	唐紙	竿縁	竿縁	有	-
⑦	単独	-	-	-	有	唐紙	根太天井	竿縁	有	-
⑧	単独	-	-	No14	有	唐紙	唐紙	省略	有	有
⑨	単独	-	-	-	-	襖絵	-	竿縁唐紙	有	-
⑩	単独	外観 平面図	-	-	有	-	-	-	-	-
⑪	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑫	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑬	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑭	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑮	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑯	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑰	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑱	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑲	単独	-	-	-	-	有	襖絵	-	竿縁	有
⑳	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
㉑	単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-
㉒	単独	-	-	-	-	有	-	-	-	-

台帳に記載された模型名称
・No1 Eene kapel van de Kamidienst [神社] ・No2 Een temple van de Buddhadienst [寺院] ・No3 Woonhuis van eenen voornamen [氣品のある住宅] ・No4 Een enen sakebrouwerij en magazijn van eenen rijst ver kooper [酒屋・米を販売する蔵] ・No5 Een wachthuis [番人小屋] ・No6 Een stofwinkel [生地・織物屋] ・No7 Huis van een visch verkoop er en suikerbakker [魚屋、菓子屋] ・No8 Een badhuis [湯屋] ・No9 Huis van een dagwerker [日雇い労働者の家] ・No10 Een boerenhuis [農家] ・No11 Een katoenwinkel [木綿屋] ・No12 Eene soja stederij [醤油屋] ・No13 Een luthuis [娯楽のための家] ・No14 空欄

長崎の町家の主な特徴：
①棟を丸瓦で納める ②白漆喰のけらば ③庇下の尾垂れ ④虫籠窓 ⑤雨戸の溝

特質を明らかにする。

本研究の具体的目標は、以下の通りである。

- (1) シーボルトらが遺した町家等の模型から近世町家建築の特質を明らかにする。
- (2) シーボルトの調査記録とシーボルト『日本』の挿図（以下、挿図）、模型、文献史料との対応関係から、模型のモデルとなった地域、製作年代を検討する。
- (3) 模型の製作目的を分析し、シーボルトらが伝えようとした日本の町家を理解する。

3. 研究の方法

本研究は、模型とブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関係文書などの文献史料と併せて検討する。

(1) 模型の外観・室内意匠の分析

模型の外観や室内意匠を分析し、その表現の差異を検討する。外観は、瓦を一枚一枚貼る、大壁と真壁を使い分けるなど、細部まで気遣って表現されている。また、室内は、長押を廻し釘隠を打つ、襖には唐紙を貼るなど、細部にわたって細かく表現されている。さらに、よく見ると部屋の使い方によって表現が異なる。これにより、シーボルトらが着目した日本の町家の特質をみることができる。

(2) 目的別にみた模型の分析

分析に先立ち、製作年代や所蔵年代が特定できる模型に絞り込む。さらに、町家、農家、遊興施設など住まい方や職業に基づいて模型を分類する。

模型には、複数の模型を組み合わせ町並みを構成している模型と、単独の模型がある。

(3) シーボルト関係文書の分析

模型は、文献、絵画史料と対照することにより、製作年代やモデルとした地域を明らかにすることができる。具体的な史料は、ライデン博のコレクション台帳や「1826年9月15日漁村小瀬戸への調査旅行」（以下、日誌）である。日誌は、すでに文献史学の分野で翻訳されているが、建築史の視点からの分析はない¹⁾。

注

- 1) 日誌の成立過程、内容については、宮坂正英「シーボルトの日誌 漁村小瀬戸への調査の旅（草稿）について」シーボルト記念館 鳴滝紀要 創刊号 1991年、に詳しい。また、『日本』の挿図との関連性についても指摘している。

4. 研究成果

(1) 目的によって使い分けられた模型

検討対象の模型を、町並み（模型①～④）と単独（模型⑤～⑧）に分類し、さらに、職業を示す模型と職業が不明な模型に分類す

る。

① 職業を示す町並みの模型（Aタイプ）

模型①～④は、異なる職業の町家を複数組み合わせ、一つの町並み模型としている（表2・図1）。それぞれの模型は、異なる商売や生業の住居や店舗を示している。これらの町並みは、実際の町並みを切り取ったのではなく、代表的な職業に対応する町家をつなぎ合わせた仮想の町並みである¹⁾。また、模型の1間あたりの製作基準寸法や、瓦や外壁の表現手法などが同じである。つまり、これらの模型は、同じ職人によって、統一した仕様に基づいて製作された。シーボルトは、模型の表現を統一することで、実際の町並みと変わらない雰囲気を伝えようとした。

② 職業を示す単独の模型（Bタイプ）

模型⑤「農家」（図2）と⑧「フロヤ」は、単独で職業を示す模型である。また、シーボルトの日誌に登場する二つの民家に対応す



図1 模型①



図2 模型⑤



図3 シーボルト『日本』(部分)



図4 模型①



図5 模型⑧



図6 模型⑧「酒屋」の見世部分



図7 模型⑧「酒屋」の床のある座敷

る。日誌には、長崎小瀬戸の民家の様相が詳しく記され、挿図や模型と対応関係にある²⁾(図3)。

日誌によると模型㉞「農家」は、1826年の長崎小瀬戸の民家(漁家)を示している。

模型㉟「フロヤ」は、挿図と対応関係にあるが、日誌には屋根の特徴しか記されておらず、小瀬戸の民家と一致するとはいえない。

この二つの模型は、長崎小瀬戸の民家を示していることから農家に分類したが、模型㉟「フロヤ」はその名称や日誌との対応関係から他に分類できると考えられる。これについては後述する。

③限定された目的を意図して製作された単独の模型(Cタイプ)

模型㉞～㉟は、単独の町家で、模型の名称や表現からは、職業や生業の住居であることは読み取れない。また、それぞれの模型の縮尺も異なる。

・座敷の格式意匠を伝えようとした模型

模型㉞「屋敷」は、正式な書院や数寄屋風の部屋があり、襖には、滝、松、人物を描くなど細部にわたって表現している。特に、他の模型では省略されることが多い天井の表現を、省略せず仕上げている。また、『日本』には外観のみならず平面図や断面図を挿図として掲載している。さらに、挿図には、部屋名や部材名称、庭の様相を事細かく注記するなど³⁾、多くの情報を伝えようとする意図がある。

この「屋敷」には、書院のある大きな部屋から数寄屋風の小さな部屋までがあり、広い台所があることから、料亭などの格式の高い接客用の建物と考えられる。また、平面図と断面図が掲載されていることから、シーボルトが内部まで調査した可能性がある⁴⁾。つまり、この建物はシーボルトが実際に訪れた可能性が高く、格式あるこの建物の雰囲気や質の高い室内意匠を正確にオランダに伝えるためには、大きな模型が必要と判断し、模型製作の基準寸法を、他の模型より大きな寸法(柱真々1間=5寸)とした。

・町家の構成や構造をあわせて伝えようとした模型

模型㉟「家」は、痕跡から模型を半分にかけて内部を見せる工夫がされている。そのため、桁行と梁間方向で製作基準寸法が異なった。

梁の継手・仕口を正確に造るなど、日本の技術を正確に伝えようとする意図がある。また、内部を見せることで日本人の生活空間を具体的に伝えようとした模型である。

・遊興空間の内部を見せるための模型

模型㉟「遊びのための家」⁵⁾(図4)と模型㉟「賭博場 喫茶店」(図5)は、土間や台所といった生活に必要な空間がない。また、周囲が見渡せる開放的な間取りである。

模型㉟「遊びのための家」は、模型内に数体の人形を配置している。特に、二階の部屋には三味線を弾く人形があり、円弧状の肘掛け窓にも人形を配置するなど華やかな印象である。

模型㉟「賭博場 喫茶店」は、2階にある天井一面に絵が描かれている部屋が重要であり、賭博場として使われた部屋と考えられる。また、1階の室内の襖はすべて風景画などが描かれていることから、茶屋に該当する。

二つの模型は、生活空間がほとんどなく、華やかな室内意匠や名称から判断すると、料亭や茶屋、賭博場などの遊興空間の模型である。また、屋根を取り外すことができ、内部を見せる工夫が施されている。

(2)シーボルトらが見た近世町家建築の特質

①室内意匠から見たシーボルトの意図

模型の室内意匠の特徴を表2に示す。襖の意匠に着目すると、模型㉞「酒屋」など商売を営む町家の襖には唐紙が貼られている。いっぽう、模型㉞「農家」など、人の生活が中心である町家(民家)には室内を仕切る襖などの建具はない。

次に床の間と天井の関係に着目する。模型㉞「酒屋」など、商品を陳列する店舗の天井は、一枚板を貼った簡略な表現である(図6)。また、床の間のない座敷の天井も同様である。いっぽう、床の間のある座敷の天井を見ると、竿縁や唐紙が貼られるなど正確に室内の様相を表現している(図7)。

シーボルトは、商売を営む町家には、商品を陳列することで室内の使い方を説明できるとし、天井の意匠は重要でないと考えた。床の間のない座敷は、具体的な使い方を理解することができず、単なる部屋として表現をした。いっぽう、床の間のある座敷の天井には、竿縁や唐紙といった仕上げが施され、違棚や掛軸などもあることから、正式な部屋であることを理解していた。

シーボルトは、職業や身分によって室内意匠が異なることを理解し、最も重要な部屋を重点的に表現した。

②外観意匠から見たシーボルトの意図

シーボルトは、後に『日本』の挿図として掲載することが念頭にあったと考えられ、模型の外観を正確に製作させた。挿図は、模型を見ながらオランダでオランダ人の画家が描いた。つまり、画家が、実見したことのない日本の町家の外観を描くためには、十分な情報が必要であった。

③模型㉟「フロヤ」は何を示しているか

前述したように、模型㉟「フロヤ」は、日誌に記された長崎小瀬戸の民家に該当するとはいえない。

シーボルトは、日誌や『日本』を編纂する際に、その記録に合う模型を当てはめたと考

えられ、たまたま外観が一致したのが模型④「フロヤ」であった。名称、模型の製作基準寸法から考えると、模型④「フロヤ」は、これまで発見できなかった模型④の「湯屋」と考えるのが妥当である。

④シーボルトらの模型は何を伝えているか

表1と表2から、シーボルトの模型は、すべて挿図や日誌などの文献史料と対応関係にある。つまり、多くの情報を伝えようとした意思があり、その結果が『日本』に遺された。いっぽう、ブロムホフやフィッセルの模型は、町家の内部を見せるなど、文献史料では伝えることができないリアリティのある模型を製作させた。

(3)まとめ

①模型の製作目的

シーボルトらは、日本の職人に模型を注文する際に、それぞれが伝えたい内容に沿う仕様を指示した。また、日本の町家を視覚的に見せるために、それに適した規模や表現方法で模型を製作させた。

②シーボルトらが着目した近世町家の特質

シーボルトらが見た日本の近世町家の特室は、職業や建物の使い方によって、その外観のみならず室内意匠が異なることである。

③模型の製作年代とモデルとなった地域

シーボルトの模型は、シーボルトが民俗学的なコレクションを収集し始めた、1826年からシーボルト事件(1828年)が起こるまでの期間に製作された。模型④「農家」は1826年の長崎小瀬戸の民家をモデルとしている。

ブロムホフやフィッセルの模型には墨書など、製作年代を示す根拠はない。しかし、ライデン博に所蔵された年代と、彼らの出島滞在期間をあわせて考えるとブロムホフの模型は1822年～1823年、フィッセルの模型は1800年～1829年に製作された。

モデルとなった地域を示す具体的な史料はないが、シーボルトとブロムホフの模型は、その建築的特徴から、江戸の町家より長崎の町家に近い。

注

- 1) 例えば、模型④は、名主と醤油屋が一体となっている。長崎の通詞であれば、商売を禁じられる代償として役料が支払われていたはずであり、商家と一体となるとは考えにくい。幕末時の通詞の役料は、大通詞十一貫目五人扶持、小通詞は五貫三〇〇目三人扶持が定額であった。(片桐一男『阿蘭陀通詞の研究』、吉川弘文館、1985年)
- 2) 野口憲治、波多野純、シーボルトが調査した長崎の民家とシーボルト『日本』との関連について- 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究(4)-、2011年度日本建築学会大会学術講演梗概集F-2分冊(日

本建築学会) pp. 541～542

- 3) 挿図には、a から始める注記番号が付け加えられているが、『日本』の本文には対応する記述が見当たらない。
- 4) 例えば、シーボルトが調査した模型④「農家」は、模型や平面図、断面図、外観の挿図が『日本』に掲載されている。
- 5) 台帳に記された模型に関する文書のタイトルには「シリーズ14」と記され、人形の数や間取りなどが記述されている。また、ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト文書に所蔵されている別の模型の台帳のNo14の部分には「Maison de plaisance (遊びのための家)」と記述されている(年代不明、フランス語で記述)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 波多野純、野口憲治、シーボルトが調査した長崎小瀬戸の民家の建築的特徴- 全国の城下町における近世町家の形成過程と多様な形式の発生要因-、日本工業大学研究報告第41巻第2号、日本工業大学、pp. 45～46、査読無、2011年
- ② 波多野純、野口憲治、全国の城下町における近世町家の形成過程と多様な形式の発生要因-シーボルト著「1826年9月15日漁村小瀬戸への調査旅行」を中心に-、日本工業大学研究報告第40巻第2号、日本工業大学、pp. 38～39、査読無、2010年

[学会発表] (計1件)

- ① 野口憲治、波多野純、シーボルトが調査した長崎の民家とシーボルト『日本』との関連について- 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究(4)-、日本建築学会、2011年8月23日、早稲田大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

波多野 純 (HATANO JUN)

日本工業大学・工学部・教授

研究者番号：40049721

(2) 研究分担者

野口 憲治 (NOGUCHI KENJI)

日本工業大学・工学部・助手

研究者番号：30337513

(3) 研究協力者

マティ・フォラー (Matthi Forrer)

ライデン国立民族学博物館・主任学芸員

ライデン大学・教授